



NO.159
 令和5年11月発行
 一般 埼玉県校外教育協会
 社団法人
 埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課内
 TEL: 048-830-6748
 ホームページ

特集「令和4年度 校外教育協会委嘱研究」



令和4年度 第57回「郷土を描く児童生徒美術展」知事賞受賞作品

「海の中の鉄道博物館」
 三郷市立立花小学校 5年（当時） 齋藤 耀太 さん

（作者から（当時））
 今年は鉄道開業150周年です。
 ぼくの大好きな鉄道博物館が海の中にあったらを想像して描きました。

主な内容

- ・会長あいさつ (2)
- ・令和5年度通常総会、校外教育研究委嘱 (3)
- ・令和4年度校外教育協会委嘱研究の概要 (4～7)
- ・第58回「郷土を描く児童生徒美術展」 (8)



私の年末アクティビティは 「泣ける作品」探しの旅



「郷土を描く児童・生徒美術展」12月23・24日

埼玉県校外教育協会会長 村上博俊



この埼玉県校外教育協会の会長に就任し10年が経とうとしています。2014年の10月号から会長挨拶として、長年、随想的に、またコラム的に好きなことを書かせていただきました。そろそろ潮時と考えています。

自宅の地元小中学校6校に日本語指導で訪問させていただいている縁で、図書室に「郷土を描く埼玉子どもの絵」が配置してあるのを確認させていただきました。感謝します。

私の生活は地域や子どもたちと絡み、次のように多様な彩を見せてくれています。

- 1 年末に埼玉県立近代美術館の「郷土を描く児童・生徒美術展」に詰める。
- 2 退職後の日本語指導で自宅付近の学校の外国の子に対する指導。
- 3 趣味である自宅工房での作陶。近隣の子どもたちのご家族と陶芸教室を開催。
- 4 毎年、教え子のカフェで懐かしい再会ができるよう自身の個展にも詰める。
- 5 巨大になりすぎた栗の木・イチジクの収穫。近所へのお詫びがてらお裾分け。
この栗の木1本で1000個の収穫が目標です。
- 6 栗の木上にツリーハウスを製作し、工房の修理改修は子どもたちも手伝ってくれる。
- 7 金魚を孵化させ希望者に配布。水槽を照明で照らしご近所の目の保養に……。
- 8 地元の学校で広島での被爆経験談を実施してくれた母への感謝の介護。

こんな多彩なアクティビティも、元は年中ご近所に迷惑をかけっぱなしであることから始まっています。陶芸での窯の火の音、垂れた釉薬を棚板からはがすグラインダーの音、日曜大工の丸鋸の音など、栗の木は1~5月は肥料の鶏糞の匂い、イチジクは5月ごろからテッポウムシの駆除、枝は電線に引っ掛かり、6月の梅雨の時期に大量に栗の花が散り、匂いも強烈、7月は若い実がジャンジャン落ち9月には隣家や道路にはみ出した枝から危険なイガの落下、10・11月のうちに剪定に時間を割き、12月は枯葉が舞い落ちる……。

いよいよ今年の12月23・24日は私が詰める最後の郷土展として、10年を感謝で振り返る「泣ける作品」探しの旅をします。



令和5年度 通常総会



令和5年6月9日(金)に、埼玉県庁教育局分室で令和5年度通常総会を開催いたしました。

当日は、令和4年度決算などの2議案が提案され、全てが原案のとおり承認されました。



校外教育研究委嘱



令和4年度研究委嘱校による研究の概要については、次ページ以降に掲載していますので、御覧ください。また、令和5年度研究委嘱校及び研究テーマは以下のとおりです。



《 令和5年度校外教育研究委嘱校及びテーマ 》

蓮田市立黒浜北小学校

「地域とのつながり・豊かな体験活動を生かした児童の心と体の育成」

秩父市立久那小学校

「特色を生かした体験活動を通して、地域とともに育む心豊かな久那っ子の育成」

さいたま市立植水中学校

「地域と連携した活動による地域に貢献できる生徒の育成」

毛呂山町立毛呂山中学校

「毛呂山を巡る豊かな体験活動を通し、地域を知り、地域を愛する生徒の育成」

「地域とともに学ぶ環境学習・活動の創造」

委 嘱 校 川口市立安行小学校

1 研究主題

本校は「植木の里」安行に位置し、都市化が進んで来たとはいえ、豊かな自然環境に恵まれている。巨木のクスノキ、ケヤキをはじめ校庭内の樹木も多い。児童数増加に伴い校舎建築もあり校内学校ファームも移設し、新たに学校外に1000平米の学校ファームも地域の協力を得て設置した。専門家、学校応援団の支援を受けながら学校ファーム、環境学習・活動を進めている。生活科、総合的な学習の時間、理科、図工など各教科で地域の歴史・自然を活かした学習を進め、地域との連携及び環境教育、食育の推進を図ることを目指し、テーマを設定した。

2 本校の取組

○年間スケジュール

- 4月・学校ファーム・環境学習計画の作成
 - ・県絶滅危惧種アカガエルの飼育、保護。
 - ・「安行原自然の森」自然観察会の実施
 - ・ヤゴ救出大作戦（2年生）ヤゴの放流。
- 5月・田植え、米作り（5年生）ホタル飼育（6年生）*10月稲刈り体験
 - ・地域の伝統行事「安行原の蛇造り」見学（4年生） 4年生蛇造り
- 6月・カイコ飼育（3年生）
 - ・サツマイモ苗植え（1年生）
 - ・「安行原自然の森」の樹木、樹名板づくりと設置
- 7月・「安行原自然の森」自然観察会（1年生）
- 10月・図工「森の妖精の帽子」安行原自然の森での展覧会実施。
- 11月・安行小まつり・エコマーケット（地域の方との交流）
- 3月・アカガエルの産卵、卵保護、飼育



3年、自然の森で絶滅危惧種
キンラン、ギンラン発見



4年、蛇造り場に学習
新聞を掲示



5年、稲刈り



安行小まつり
エコマーケット

3 成果と課題

- ・専門家や地域の方の協力、交流を得て、児童たちはもちろん保護者も地域の自然、伝統、歴史に触れることで地域を大切に思う気持ちが育まれた。
- ・開校150周年ということもあり、記念行事として新たに学校外に1000平米の田んぼビオトープを地域の協力を得て設置できた。今後、さらに専門家、地域の協力を得ながら田んぼビオトープ作りを進め、さらに教科横断的、体験的、探求的な学習を進める。

「主体的に学ぶ児童生徒の育成」

～地域の教育活動を活かした豊かな体験活動を通して～

委 嘱 校 坂戸市立城山小学校 坂戸市立城山中学校

1 研究主題

主体的に学ぶ児童生徒の育成

～ 地域の教育活動を活かした豊かな体験活動を通して ～

2 本校の取組

本校は施設一体型の小中一貫教育校「城山学園」として創立8年目をむかえた。児童生徒の人数の減少に伴い、子供同士が良好な人間関係を築きあげるだけでなく、地域の方々との交流により「生きる力」を育むことが重要である。本校は学校応援団の協力が充実しており、年間を通じて豊かな体験活動の機会に恵まれている。また、近隣の城西大学からも地域ボランティアとして活動する学生との交流も盛んである。このような環境をさらに充実させ、児童生徒が学んだことを人生や社会に活かそうとする「学びに向かう力」を身につけさせたいと考える。

スケジュール

通年：ステューデントインターンシップによる城西大学学生の学習支援

通年：学校応援団読書ボランティアによる朝の読み聞かせ

5月：児童生徒の意識調査

：学校応援団による応援メッセージ掲示

春：野菜の種、苗植え（2, 3, 4年）

6月：埼玉医科大学産婦人科医による「命の授業」（4年）

秋：野菜の収穫手伝い（2, 3, 4年）

10月：西坂戸自治会、城西大学ボランティア主催のハロウィンパーティー

10月：学校応援団緑化ボランティアと連携した花の植え替え（小中）

10月：ピースミュージアムによるピースキャラバン「出前授業」（3, 4年）

11月：理科「流れる水の働き」のジオラマ製作および実験協力（5年）

11月：街探検（2年）、琴の出前授業（4～6年）

12月：車椅子体験

12月：城西大学と連携したプログラミング学習

12月：城西大学薬学部サークルによる薬物乱用防止教室（5, 6年）

3 成果と課題

（1）研究の成果

近隣の城西大学や埼玉医科大学の先生方による出前授業では、専門的な知識や経験による指導により、学校での学習だけでなく実際の仕事とのつながりについて講師の具体的な経験から学ぶことができた。また、日頃からお世話になっている学校応援団の方との活動を通して、地域の方々とのふれあいを図ることができ、豊かな心の育成につながっている。

（2）今後の課題

体験学習をさらに充実させていくためには、通常の学習とのつながりを意識した学習指導が必要となる。そのため、事前学習や事後の振り返りを行うことで貴重な学習機会をさらに充実させていく必要がある。

「地域に学ぶ豊かな体験学習を通した『地域に貢献できる生徒』の育成」

委 嘱 校 神川町立神川中学校

1 研究主題

(1) 研究主題

「地域に学ぶ豊かな体験学習を通した『地域に貢献できる生徒』の育成」

(2) 研究主題設定の理由

本校では、地域に学ぶ活動を積極的に取り入れ、自分が暮らす地域についての理解を深め、地域の方との交流の中で地域の課題を考えさせることにより、日頃の教育活動で培った「基礎的・汎用的能力」を実践に生かし、伸長することができるようにしている。その学習の最終的なゴールは、将来的に「地域に貢献できる」生き方ができるかどうかであると考え、本主題を設定した。

2 本校の取組

(1) 研究計画

- 4月 アドベンチャー教室 (1年)
- 6月 宿泊体験学習 (2年)
認知症サポーターキッズ学習会 (1年)
- 7月 校外学習 (1年生) 修学旅行 (3年)
- 8月 中学生議会 (代表者)
- 9月 ハローワーク講演会 (1年)
- 10月 日本薬科大学の講演会 (3年)
- 11月 (株)ヤマキによる講演会 (3年)
- 12月 (株)ヤマキによる豆腐作り体験 (3年)
- 1月 キャリア教育講演会 (2年)
- 2月 立志式 (2年生)

(2) 具体的な取組 (抜粋)

①アドベンチャー教室 (右上画像)

神川げんきプラザのアドベンチャー教育プログラムを活用して、目標に向け協力し合うことの大切さを学び、より良い仲間づくりに生かしている。

②校外学習

川越市内で行う。班での話し合いや班行動などに重点を置いて取り組んだ。埼玉県を代表する観光地である川越の歴史や文化などについて学ぶことで、埼玉県についての理解を深めた。

③宿泊体験学習

自然の中で体験を通じて、みんなで励まし合いながら、問題対応能力の育成がその中心となる。様々な取組を通して、困難や課題を克服するための力をつけた。

④キャリア教育講演会 (右中画像)

神川町内や近隣にある専門学校の方々 (教員・専門学校学生)、地域で活躍している卒業生や企業の方、様々なジャンルの仕事に従事されている方などをお招きして、ブース形式による学習会を実施している。

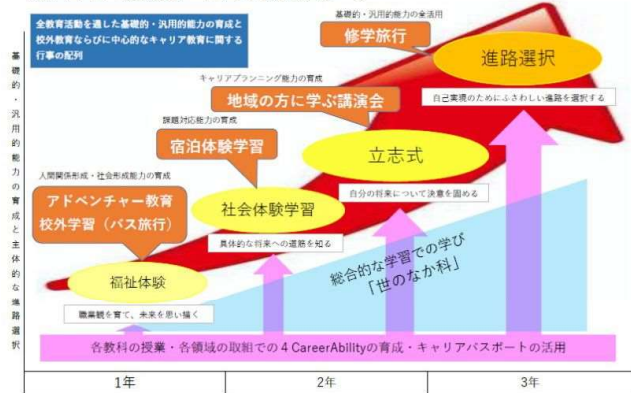
⑤修学旅行

修学旅行は、キャリア教育における基礎的・汎用的能力の全活用が必要な行事であり、中学校の校外教育の集大成と考えている。

⑥総合的な学習の時間「世のなか科」 (右下画像)

総合的な学習の時間のカリキュラムに「世のなか科」という時間を設定している。1年「自分や地域を知る」、2年「地域とつながる・志を立てる」、3年「地域に貢献する」をテーマに進めている。最終的には、企業紹介や町おこしにつながるパンフレットづくりに取り組んでいる。

神川中学校 校外教育・キャリア教育のイメージ



3 成果と課題

カリキュラムマネジメントを生かし、「地域に学ぶ体験的な学習」に取り組んできた。コロナの影響も残り、いろいろな制限がある中、体験的な学習がいろいろな形で実施できたことは、とても大きな成果である。さらに、日本薬科大学との連携事業、地域の企業との連携も今後につながる大きな成果である。次年度は大豆を作るところから生徒が関わり、より発展的に校外教育とする。しかし、学習する時期等の計画の工夫改善が今後の課題である。

「地域の教育力を生かした学習活動による 地元愛に満ちた生徒の育成」

委 嘱 校 久喜市立栗橋東中学校

1 研究主題

地域の教育力を生かした学習活動による地元愛に満ちた生徒の育成

〈選定理由〉コロナ禍もあり様々な活動が制限され、これまで実践してきた学習活動が行えず、地域の方々と接する機会も減少している。ICT 機器を活用するなど実施方法を工夫し、地域の教育力を活用した学習を取り入れ、教師以外の視点からの学びを充実させたい。そこで、地域の方と触れ合う学習活動を通して、コミュニケーション能力を育成するとともに地元を愛する生徒を育成したいと考え、テーマを設定した。

2 本校の取組

(1) 技術・家庭科（家庭分野）での取組

- ①久喜市役所高齢者福祉課の方を講師とし、高齢者の身体の特徴を踏まえた関わり方や接し方、家庭や高齢者等の地域の人々との関わりについて理解することを目的に授業を実施。
- ②ハクビ京都きもの学院の方を講師とし、浴衣の着付け体験を実施。
- ③市内他校に勤務する栄養教諭と連携し、1食分の献立作りの授業を実施。



(2) 総合的な学習の時間での取組

- ①近隣・市内の高等学校による体験授業の実施。
- ②市内の「子育て支援サークル ハッピー」の方に講師を依頼し、妊婦体験学習を実施。
- ③市内の「子育て支援サークル ハッピー」の支援を受け、幼児ふれ合い学習を実施。
- ④地域の保育園の先生を講師とし、幼児の発育についての授業を実施。



(3) 地域との交流での取組

- ①地域の自治会主催「グランドゴルフ大会」への生徒の参加。
- ②「栗橋関所マラソン」(久喜市出身：川内選手主催)へのボランティアとしての生徒の参加。
- ③中学生による出張型進路学習会の実施。次年度入学予定の6年生に対し、中学校での学習や生活・部活動等について代表生徒が出身小学校に出向き、学校生活等についての説明会を実施。
- ④学校運営協議会・学校応援団と連携した環境整備の実施。(年に4～5回実施、主に除草や花の植え替え作業)



3 成果と課題

○校内で独自に「ボランティアーズ」という組織があり、所属する生徒が多くなってきている。組織に所属していなくても、落ち葉掃きボランティアを募集すると多くの生徒が参加する等、奉仕の心が更に育成されてきた。

○地域の方々と協働して、地域行事に参加することで、地域の方々への感謝の心や地元愛に満ちた生徒を育成することができた。

○地域の方々も、生徒と共に活動してコミュニケーションを取ることで、やりがいや生き甲斐を感じる方もおり、地域の活性化にもつながった。

▲新型コロナウイルス感染症の影響で、未だに実施されない地域の催し物があり、交流する機会が減少している。また、学校で企画していた地域の方々を講師とした学習活動が一部実施できていない。

▲地域の方々の高齢化に伴い、環境整備や実施時期等に配慮しなければならない。

(実施時期、時間帯【熱中症対策等】、作業時間等)

▲体験学習の幅が広がるよう、新規体験学習を地域と共に開発していく必要がある。

第58回「郷土を描く児童生徒美術展」

趣 旨 「郷土を描く児童生徒美術展」は、児童生徒が郷土を描き、その作品による展覧会を実施することによって、郷土埼玉に対する理解と認識を深め、郷土愛の高揚を図ろうとするもので、「埼玉県芸術文化祭2023地域文化事業」として行います。

主 催 埼玉県校外教育協会 埼玉県 埼玉県教育委員会 埼玉県芸術文化祭実行委員会

共 催 さいたま市教育委員会 埼玉縣市町村教育委員会連合会 埼玉県美術教育連盟

期 日 中央展覧会
令和5年12月23日(土)～12月24日(日) 10時00分～16時30分 (12月24日は16時00分まで)
知事賞作品120点を展示します。
受賞者名簿(知事賞・特選)は校外教育協会のHPに11月中旬に公開する予定です。

会 場 埼玉県立近代美術館
(さいたま市浦和区常盤9-30-1)
【電車】
JR京浜東北線北浦和駅西口徒歩3分(北浦和公園内)

関係者を除く一般の方への駐車場の開放は行いません。
御来場の際は、公共交通機関等の御利用をお願いします。

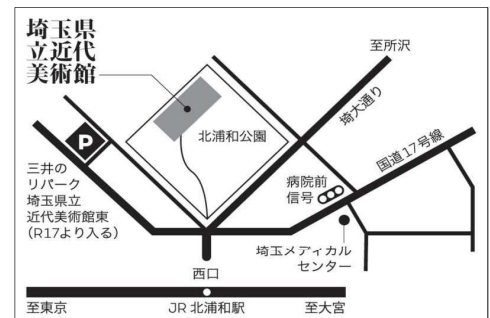


表 彰 優れた作品には、賞状を授与します。

【区分】

特選：約1,010点
(知事賞作品120点を含む。)

入選：約10,000点

知事賞作品は「画集 埼玉子どもの絵」
(埼玉新聞社発行)に掲載されます。

H P [埼玉県 校外教育](#) で [検索](#)
すると協会のトップページから入れます。

～第57回美術展の作品から～



「夏の水路」
越谷市立大相模中学校 2年 (当時)
田代 万実 さん